

かわち まつばら 河内松原駅(松原市)～上ノ太子駅(羽曳野市)

歩行距離 16.2km
標準歩行時間 3時間23分
標準所要時間 7時間
(標準所要時間は観光・休憩を含めた時間)

松原市南部を抜けて羽曳野市へ。この付近には体積では日本一の応神陵古墳をはじめ大小の古墳や古社寺が並んでいます。街道沿いにある、それら古代文化の名残を訪ね歩くのも楽しいエリア。臥龍橋を越えると飛鳥川の旧河川敷を利用した遊歩道「であいのみち」もあり、古墳時代・飛鳥時代を表現したモニュメントなどで、羽曳野の歴史や文化と出会えます。



野中寺

聖徳太子と蘇我馬子の建立と伝えられ、祝福寺(えいふくじ)の「上の太子」、大聖勝軍寺(だいせいしょうぐんじ)の「下の太子」に対して「中の太子」と呼ばれており、竹内街道に南大門を置く大寺院でした。境内に残っている塔跡や金堂跡など飛鳥時代の伽藍の一部は、国指定の史跡。白鳳期の弥勒菩薩像、鎌倉期の地藏菩薩立像などの重要文化財のほか、ヒチンジョ池西古墳出土の石棺なども残されています。また、府の天然記念物に指定されているサザンカや、浄瑠璃でおなじみのお泉久松の墓などがあります。



●TEL: 072-953-2248 ●拝観料: 境内自由(弥勒菩薩半座像の拝観は300円) ●拝観時間: 境内自由

日本武尊白鳥陵

記紀に記される英雄、日本武尊の陵とされる前方後円墳。東征の帰り、伊勢で病のために亡くなった日本武尊は、白鳥に姿を変えて飛び立ちました。大和を経てこの地に舞い降り、その後、西方に向けて羽を曳くように飛び去ったという伝説から「羽曳野」という市名が生まれたといわれています。



誉田八幡宮

祭神は応神天皇・仲哀天皇・神功皇后・欽明天皇の命で応神陵の前に廟を造ったのが始まりで、後冷泉天皇のとき現社地に移ったと伝えられています。宝物庫には源頼朝が奉納した塵地螺鈿金銅装神輿(ちりびらでんこんどうそうしんよ)や丸山古墳から見つかった金堂透彫鞍金具(こんどうすかしほりくらかなぐ)などの国宝をはじめ、貴重な文化財が多数おさめられています。



●TEL: 072-956-0635 ●拝観料: 境内自由(宝物館400円) ●拝観時間: 境内自由、宝物館は13:00~16:00(土曜のみ閉館)

応神天皇陵古墳

全長425m、盛土の体積では日本一の規模を誇る前方後円墳。古市古墳群の中心となる古墳で、西側の外濠外堤跡は国の史跡に指定されています。



河内木綿

江戸時代から綿作が盛んだった河内地方では、自家製の綿による糸織りや木綿織りが農家の副業として行われており、河内木綿として知られていました。宝永元年(1704)の大和川付け替え以降、旧川床にできた新田で本格的な綿栽培が始まると、河内木綿の生産量は飛躍的に増加しました。



東高野街道

平安時代に盛んとなった高野詣の際、多くの人々が行き交った道。京都の東寺から生駒西麓を南下し、羽曳野市を南北に貫き、紀伊峠を経て高野山に至ります。現在、市内を通る街道の一部は石畳などで整備されています。



大塚山古墳

全長335m、わが国で5番目に大きな前方後円墳。埋葬者は不明ですが、6世紀後半に築造されたものです。中世には丹下氏によって丹下城が墳丘内に築かれ、江戸時代には前方部が大塚村の集落があり、後円部には天満宮が祀られました。大正14年に陵墓参考地となり、昭和の初年までに集落は墳丘外に移されています。



西琳寺

応神朝に渡来した百濟の学者王仁(わに)の子孫は、「西文氏(かわちのふみし)」として高い技術や知識をもって地位を高め、7世紀前半のこの寺を創建しました。当時は壮大な規模を誇り、現在の境内にはその名残を留める五重塔の巨大な心礎があります。また、出土した約1350年前の鴟尾(しび)は、市の指定文化財で、市役所のロビーで展示されています。



●TEL: 072-956-0603 ●拝観自由

子供奉納相撲(柴籬神社・毎年10月)

本格的な土俵で、子供たちによる奉納相撲がおこなわれます。午後には、こどもゲンジリの曳行もおこなわれ、終日にぎわいます。



誉田八幡宮秋季大祭(毎年9月)

神輿が、境内にある太鼓橋を渡って、御陵(応神陵古墳)の後円部頂上にあつた御堂までお渡りをする、盛大な祭礼がおこなわれます。



アクセス

- スタート駅へ
- 近鉄南大阪線「大阪阿部野橋駅」から
準急で約10分、「河内松原駅」
 - 近鉄南大阪線「榊原神宮前駅」から
急行で約20分、「古市駅」乗換、準急で約11分、「河内松原駅」
- 帰りの駅から
- 近鉄南大阪線「上ノ太子駅」から
準急約31分、「大阪阿部野橋駅」
 - 近鉄南大阪線「上ノ太子駅」から
普通または準急で約12分、「尺土駅」乗換、急行で約8分、「榊原神宮前駅」